ATSUGI SYMPHONY ORCHESTRA
Since 1977

“厚木交響楽団 友の会”通信

厚木交響楽団
http://www.atsukyo.com

第31号／2016年8月

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局

いよいよ本格的な夏の到来です！
しばらくは暑さ厳しい毎日が続きますが、会員の皆様には、どうぞお健やかに日々をお過ごし下さい。
たとえば、ドイツの森の木陰で開かれるsummer seminarをイメージしてみてください。少しは涼しくなりませんか？
講師は、毎回楽しいプログラムノートが好評の島聡子さんです。ここには２度目の登場となります。

この秋、私達は実に27年ぶりにR.シュトラウスの曲に挑戦いたします。
「R.シュトラウスって誰だっけ？」「ニューイヤーコンサートのワルツで有名な？」
いえいえ、あの方ではありませんよ。さあ始まります。どうぞご清聴ください！

今回演奏する交響詩『ドン・ファン』、その作曲者であるR・シュトラウスについて、お話させていただきます。

リヒャルト・ゲオルグ・シュトラウス（Richard Georg Strauss /1864-1949）はドイツ出身の作曲家・指揮者です。当時の“新しい”音楽を数多く生み出し、交響詩に始まり、歌曲やオペラなど、声楽と器楽のどちらにも多くの代表作が残されています。しかし、彼の原点は、メンデルスゾーンやモーツァルトといった、古典的な音楽たちから始まっていました。

ホルン奏者の息子として生まれたリヒャルト。このホルン吹きであるお父さんが、幼い我が子に音楽教育を徹底的に叩き込みます。それは新しい音楽ではなく、それまで彼らがずっと親しんで来た古典的な音楽たちでした。熱心な教育の成果か、早くから作曲も始めたリヒャルトの作風は、古典風な雰囲気の曲から始まっていたのです。

やがて大学へ進むと、彼は指揮者として活躍し始めます。
音楽家として成長し、活躍し始めた彼が出逢ったのが、当時革新的とも言える音楽たちでした。こんな新しい音楽を作りたいと思い、指揮者として活動する傍らで、作曲を進めてゆきます。今回演奏する交響詩『ドン・ファン』は、リヒャルト・シュトラウス出世作とも言われています。初演の際、評価はまっぷたつに分かれましたが、その評価すら「誰もやってこなかったことをしている、新しい道を進んでいるんだ」とポジティブに捉えていたようです。ようやく、自分が本当に辿りたい道を見つけたのですね。

他にも有名な曲と言えば、映画「2001年宇宙の旅」の代名詞『ツァラトゥストラはかく語りき』や、「のだめカンタービレ」にも登場した『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら』などがあります。↗

Richard Strauss

これらの曲を思い浮かべると、現代の私たちにとっては“斬新”と呼べるほど真新しい曲ではなく、どちらかと言えば素直に楽しく聴ける曲です。それもそのはず、彼の晩年には、“前衛的”と呼ばれるような、音楽の壁をぶち破るような、ある意味実験のような音楽が次々と登場していた時代だったのです。リヒャルトも革新的な作品を生み出していますが、前衛的な彼らの作品に比べれば「過去の作曲家である」と自ら認めています。しかしながら、新しいと面白がられる曲でなくとも、時を超えても、私たちが良さを感じられる曲なのです。

ちなみに、同じシュトラウスさんで真っ先に思いつくのは、『美しき青きドナウ川』や『皇帝円舞曲』などの数々のワルツで有名な、“ワルツ王”ヨハン・シュトラウス２世ですが、彼とリヒャルトの間には、全く血縁関係はありません。が、「あの『ドナウ』の人ですか？」と間違えられたことはあるそうです。それにしても、ヨハンさんには“ワルツ王”の他にも、“ウィーンの太陽”“ウィーンのもう一人の皇帝”なんてご大層なキャッチフレーズがあるのに、リヒャルトさんにはこれといった通り名がないのですよ…後から凄さが認められるという、ちょっぴり損なタイプなのかもしれません。そんな彼の音楽に満ちあふれている魅力を、ぜひ見つけにいらしてください。

（島　聡子）

Vla. 吉岡 章城さん

このコンサートでバイオリンをビオラに持ち替えて難曲ドン・ファンに挑んでいます。当初はビオラを触るのも初めて、ハ音記号の楽譜も読めない…不安だらけの船出でしたが、4か月経ったところで一句。
～フィンガリング、決まってしまえばあと（バイオリンと）同じ～
「曲が弾ける」のと「ビオラが弾ける」のとはちょっと違いますが、ハ音記号にもずいぶん慣れ、ファーストバイオリンのような超高音もなく、いぶし銀の中低音を楽しんでいます。指揮者の注目度がほとんどないのが寂しいですが・・・。今後厚響で両刀使いが増えることを期待します(^^)v

Fl. 井原 明喜子さん

久々にきた真っ黒な楽譜！R・シュトラウスの第一印象はやはり「音がたくさんある」ことです。それでも音取りはしやすいのが不思議です。前回演奏会のニールセン『不滅』にはいつまでも苦労しました。私の中にはそういう音はないとでも言いましょうか。黒い楽譜ではなかったのですが不思議なものですね。
またリヒャルトといえば『ツァラ』が有名ですね。初めての海外旅行でパリに行ったとき、パリ管のツァラを生で聞きながら爆睡したという実にもったいない経験をしたことがあります。それはさておき、今回の『ドン・ファン』。金管が鳴らしてくる曲なので大きな音で力一杯演奏しないとフルートの音が消されちゃう！と思われがちですが意外にそうでもなく、きちんと楽器を鳴らせば浮き立って聞こえると思っています。また、強奏だけでなくソリストとしての表現力が要求されるところもあります。さて、そのように理想的な演奏ができますでしょうか…。

演奏時間 18 分
余りの間に目くるめく
世界が展開する
交響詩『ドン・ファン』！
暑い中 練習に励む団員と、今回の
コンダクター 大浦先生に
この曲に寄せる想いを
聞いてみました。

Hr. 樋口 優子さん

「俺たちがいったい何をやらかしたって言うんだ！これじゃ鞭打ち刑だ！」これは初演練習の際に、シュトラウス自身がホルン奏者に言われた言葉だそうです。私も大浦先生にそう叫びたいのも山々なんですが(^_^;) そう言えないのは「死ぬまでに一度はドンファンをやってみたい！」とホルンパートの一人が言っちゃったからなんです。(当然、罰として 1st 吹かせてますけどね)
でも、そう言わせるほどの魅力溢れるドン・ファン。
力強い男性的な部分と甘い女性的な部分、想像を超える官能の世界（笑）やっぱり人を惹きつける曲には人間の根底を揺さぶる「何か」があるんだな、と思ったりしてます。大変な曲ではありますが、最後まで朽ち果てぬようがんばりますので、応援よろしくお願いします！

Vn. 大山 浩吉さん

私とリヒャルト・シュトラウスとの出会いは大学に入学して大学オケに入ったその１年目にやった「ティル・オイゲンシュピーゲルの愉快ないたずら」からですのでかれこれ５０数年前になります。その曲はもうハチャメチャに難しかったので ホルンのソロを聴いているだけで自分も何か弾いたような気分になるのが精一杯だったように記憶しています。
今回のドン・ファンも先入観としてはとにかく難しいということだけでしたが 指揮の大浦先生との練習を重ねるごとに意外や意外 妖艶な和音と連綿と続く旋律を体験することでこんなにも面白い曲であることを発見してしまい できる出来ないを度外視してのめり込むようになった自分がいることに驚いています。
そのような気分にさせるだけでもドン・ファンは やり甲斐のある曲だと思っています。

指揮者 大浦 智弘 先生

交響詩≪ ドン・ファン≫ に寄せて

シュトラウスにとっての交響詩とは詩や物語の筋を音楽でなぞるのではなく、その中にある「詩的想念」を紡いだものである。大先輩ヴァーグナーの主著「オペラとドラマ」における詩＝男性と音楽＝女性が結ばれることでドラマが誕生するという構図が彼の思考の根底にあったのではないだろうか？この≪ ドン・ファン≫ において主人公は「現実の中で至高の女性への最高の愛（エロス）を求める理想主義者」として描かれている。シュトラウス自身はこの作品を作曲する前後に、後に夫人となるソプラノ歌手パウリーネと出会い、恋愛をし、日々音楽と彼女の結びつきを考えるようになった。彼女を主役に起用してのオペラ上演や自身のオペラの作曲。そして多くの歌曲が彼女を源として生み出された。まさに「至高の女性」と結ばれたのである。もしかすると、この作品中の数々の女性を表現する魅力的な旋律もその産物なのかもしれない。

来年創立 40 周年を迎える厚木交響楽団は、これまでに 75 回の定期演奏会を催してきました。でも演奏会当日、全てを団員だけで運営しているわけではありません。
いつも裏で私達をサポートしてくれる人達がいます。
そんな「縁の下の力持ち」的な人々をご紹介いたしましょう。
今回はまず、「受付編」です。

今回お手伝いして下さった皆さんです。初めての方からベテランさんまで様々です。

まずは、開場 1 時間前のミーティングから。

メンバーには団員もいます。

チケットブースはベテランのお二人。

さあ、いよいよ開場です。

もぎりとプログラム渡しの 5 人が活躍中！

花束受付の 2 人。右は元団員の K さん。

急遽設置された「くまモン募金箱」

― 2016 年 4 月 24 日　第 75 回定期演奏会より

開演 30 分前にホールの扉を開き、お客様を一番先にお迎えする。そして本番中団員がステージに出払っている間も、しっかりと受付を守ってくれる・・・それが「受付」スタッフの皆さんです。
毎回、団員の家族や友人、知人の方を対象にメンバーを募集しています。もう 10 年以上も継続して引き受けてくれているベテランさんから、全く初めての人までいつも少しずつ違った顔ぶれですが、皆さん、本当に良くやって下さっています。
当日会場に集合して、受付担当の団員と一緒に簡単な打ち合わせを行いますが、初めての方にしてみれば、いわばぶっつけ本番！始まってみないと何が起こるかわかりません。
プロのコンサートでは、ホール専属のスタッフ、あるいはマネージメントのプロが行う仕事ですが、私達の場合は演奏者も、スタッフもみんなアマチュアです（笑）。
次にお越しの際には、どうぞそんな受付スタッフにあたたかい眼差しを送っていただけましたら幸いです。

2015年度　会 計 報 告（会計年度は2015年4月1日～2016年3月31日）

【会員数】

種　類	年会費（円）	人　数（口数）	計（円）
Solo	2,500	11（13）	32,500
Duet	5,000	9	45,000
Concert	10,000	5	50,000
Symphony	30,000	2（3）	90,000
計	―	27人（32口）	217,500

【収入と支出】

収　入（円）		支　出（円）	
昨年度繰越金	24,453	郵送代	14,728
会費	217,500	事務用品	8,097
貯金利息	62	年賀状ハガキ	2,704
		会員招待入場券代金	83,000
		振込手数料	108
		交響楽団助成金	90,000
		慶弔費（弔電）	0
		次年度繰越金	43,378
計	242,015	計	242,015

厚木交響楽団友の会2015年度会計は、6月の定例役員会において、会計監査、承認されました。定期演奏会等の入場券代金83,000円のほか、90,000円を団への助成金として、楽器の運搬用トラックの維持費、ガソリン代等に充てさせていただきました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

今後の演奏会予定

●2016年度 あつぎ市民芸術祭

12月11日（日）14:00開演予定　厚木市文化会館 大ホール
ヘンデル「メサイア」
指揮／松村 秀明　　合唱／あつぎ市民合唱団

●第2回 大和ニューイヤーコンサート

2017年1月14日（土）16:00開演予定　やまと芸術文化ホール

●第6回 海老名ニューイヤーコンサート

2017年1月15日（日）15:00開演予定　海老名文化会館
＜出演＞歌手／バリトン：崔 宗宝、崔 宗順　　ソプラノ：森 麻季
指揮／田久保 裕一　　オーケストラ／厚木交響楽団
大和市内のバレエ教室　　中国雑技団

事務局より

- 去る4月24日に開催された第75回定期演奏会は、533名のお客様をお迎えして無事終了いたしました。稲垣先生の熱い指揮が私達に大きな力を与えてくれ、素晴らしい演奏会になったと自負しております。アンケートでも嬉しいご感想をたくさんいただきました。直前の震災で大きな被害に遭われた方々にと、急遽受付に「くまモン募金箱」を設置させていただきましたが、実に123,279円ものご協力をいただきました！善意の義援金は、厚木市福祉総務課から日本赤十字神奈川支部を経て、被災地へと届けられました。あらためて皆様のあたたかいお気持ちに感謝し、心からのお礼を申し上げます。
- 「今後の演奏会予定」でご案内いたしました3回のステージにつきましては、「メサイア」公演はご招待券を次号友の会通信と一緒に、皆様のお手元にお届けする予定です。今回初参加のニューイヤーコンサートでは、今のところチケットを取扱う予定はございません。詳しい内容は次号友の会通信にてお知らせいたします。
- 厚木交響楽団第76回定期演奏会（9月25日14時開演）の会員招待券を同封させていただきました。ドイツの重厚な二曲に挟まれてすっかり影が薄くなっていますが、ドビュッシーの「小組曲」はフランスのエスプリいっぱいのお洒落な曲目です。きらきらと色彩を放つ4つの個性的な曲たちは、それぞれが印象派の絵画を見るような趣があります。折しも、六本木の国立新美術館では8月22日まで「ルノワール展」を開催中です。
道中は暑いですが、美術館に入ってしまえば快適な時間が過ごせますよ。まずは絵画から印象派を楽しんで来られてはいかがでしょうか？（大浦先生もお勧めです！）

（事務局　岡田 史子）

《友の会事務局》　〒252-0334 相模原市南区若松5-10-11 西尾 方　　〈FAX〉042-712-5824